

Title	上野陽一著 産業能率概論
Sub Title	
Author	藤林, 敬三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1928
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.22, No.3 (1928. 3) ,p.460(168)- 462(170)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19280301-0168

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

若し著者にして卷末に索引を附するの勞を惜まれざりしならんには、何人も遙かに大なる便益を感じたであらう。

最後に本書は著者の計畫になる「應用心理學研究」の第三卷として刊行せられしものであつて、尙ほ「性能研究」、「作業心理學」及び「軍事心理學」の三卷は應て公刊せらるべく、又「應用心理學概論」、「經濟心理學」、「廣告心理學」及び「教育心理學」の四卷の計畫あり、吾々は此の機に際して著者の此の宏大なる計畫の完成の一日も早からん事を希望して止まない。(昭和二年十月發行、教育研究會、定價金五圓五十錢)

(昭和三年二月十二日)

藤林敬三

上野陽一著 産業能率概論

本書は一昨年夏、著者が滿鐵能率講座に於て爲したる講義から成り、既に「産業能率講義要領」と題して、當時部の人々の間に配布せられたるものを最近再び一般讀者のために公刊せられたるものである。

本書は總論、史論、標準論、組織論及び結論の五部から成る。著者は總論に於て産業能率の意義を、史論に於て能率研究の發展を叙述す。而して本書の骨子をなすは標準論と組織論とである。著者の見解に従へば、産業能率とは「産業ノタメニ費ストコロト、ソノ結果トラ比ベテ、ナルベクソノ比ヲ大ナラシメルコト」或は「最少限度ノ資本・物質・知識・勞働ヲ費ヤシ、生産ニヨツテナルベク大ナル富ヲ作ルコトデアル」(四、五頁)而して産業能率の直接目的とする所は製品の「品質ノ向上、出來高ノ増進、製作期間ノ短縮」であり、(一一〇頁)其の結果は生産費の減少である。(一二七頁)産業

能率の斯くの如き目的と結果とのために、先づ生産上の人的要素並に物的要素に關する種々の方面が標準化せらるゝことが必要であり、而して是等の標準化と其の維持とが實現せらるゝならば、茲に製品の品質、出來高及び製作期間の標準の確定が可能となり、更に製造原費(原價)の豫定標準が確定せられ得る。故に著者の見解に於ては結局産業能率の増進は製造原費をして其の豫定標準以下に低下せしめんとする努力の内に實現せらる。凡そ最近の發達にかゝる科學的管理法に發する能率論は、結局本著者に於て見るが如く、私經濟的考慮に歸着する。乍然、能率論を以て心理學、生理學を基礎とする生産の人的要素に關する一應用科學中に解決せらるべきものなりと做す評者は、直ちに著者の能率概念に諷同し得ない。(本誌第二十二卷第十號掲載拙稿參考)

其は兎もあれ、既に打ち樹てられたる標準は一定の方法、手續、設備の下に維持せられることが必要である。かくて著者の標準論は標準化論と標準維持論とに分たるゝが、本書に於ては主として前者に重きを置き標準化に必要な研究の方法及び結果の叙述が本書の大部分を占めてゐる。更に組織論に至つて著者は右の標準化を事實に可能ならしめるために、適當なる工場組織の必要を説き、分任組織として Taylor の functional foremanship を是認する。

著者は本書に題して「産業能率概論」と云ふも、吾國に於ては科學的管理と云ふよりは「能率」なる語が一般に行はると著者自ら記するが如く、(七頁)本書は正に科學的管理法概論である。科學的管理法に關しては最近吾國に於ても國松豊氏の「科學的管理法綱要」(大正十五年)がある。此の書が Taylor の科學的研究の要目と見做さるゝものを傳へる(第二編)に對して、本書は標準論を中心に系統付けられてゐる點に特色がある。乍然、國松氏が科學的管理法に對する從來の非難に對して其の救済に就いての用意を持たるゝに對して、本著者は遙かに熱心に Taylorism 本來の精神を傳へてゐる。(結論)唯だ、米國に於ける科學的管理法が科學から温情への傾向を辿れるに反して、著者は吾

國に於ては温情から科學への傾向を認め、温情主義の背後に加ふるに科學的研究を以つてせんとす
る。(一六一七頁)乍然、能率問題の事實上の解決が温情主義に於て可能なるや否や、又萬全なるや
否やは評者の甚だ疑問とする所である。

本書は僅かに菊版一六〇頁餘の小冊ではあるが、科學的管理法の概要を著者自らの體系に於て平
易に説明せられたるものであり、又科學的管理法に關する單行著作の比較的少なき吾國に於ては本
書は一入門書の役目を果すであらう。尙ほ本書の卷末には内外の參考書が分類集録せられ、各書に
簡短なる解題が附せられたるが故に、初學者に對しては甚だ好都合である。(昭和二年十二月發行、
同文館、定價金一圓七十錢)

(昭和三年二月十二日)

藤林敬三

前號 (第二十二卷) 目次

- ◎ 歴史と理想 瀧本 誠一
- ◎ 分業組織としての經營概念 向井 鹿松
- ◎ 家計調査の結果 高城仙次郎
- ◎ 古代社會に於ける經濟生活發達の史的經過に就て 山本勝太郎
- ◎ Turgéon の價值論に關する Gaetan Piron の批評に就て 永田 清

● 一冊定價金五拾錢 郵税金壹錢五厘
● 半年分金貳圓九拾錢 郵 稅 共
● 一年分金五圓四拾錢

● 編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
● 營業に關する用件は發賣元宛

● 原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和三年二月廿九日印刷納本
昭和三年三月一日發行 每月一回一日發行

三田學會雜誌 禁轉載
第二十二卷 第三號
編輯者 江田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵 五 郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地 金子 活 版 所

東京市芝區三田貳丁目壹番地

發賣元 丸善株式會社三田出張所

電話高輪 一九二六

● 尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會